

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（派遣）
研究交流報告書

報告日：2019年3月28日

派遣者所属名	人間発達環境学研究科
派遣者氏名	佐藤 春実
2019年1月21日から2019年3月17日の期間、インペリアル・カレッジ・ロンドンにおいてSergei Kazarian教授と、高分子材料の赤外全反射減衰法によるイメージング測定に関する研究を行った。具体的には、生分解性高分子であるポリヒドロキシブタン酸とポリ乳酸のブレンドの相図を実験的に決定し、それらのポリマーブレンドの相分離と結晶化過程を赤外全反射減衰法によるイメージング測定法を用いて詳細に調べた。ポリマーブレンドの組成比、結晶化温度を変化させ、それらの等温結晶化過程におけるイメージング測定（64X64ピクセル）を行った。 研究室の学生とは、毎日、実験結果について議論し、実験のやり方、温度の設定や組成の設定など、次の実験の予定や手順について十分に検討しながら、実験を進めた。 週に何度かKazarian教授とも議論をし、数週間に一度は学生も交えて長時間の議論を行った。また、Kazarian教授とは頻繁にメールでもやり取りを行い、データ共有、情報共有、状況の報告などを常に行いコミュニケーションをとることができた。 また、研究室のゼミにも参加し、研究紹介の講演を行った。ゼミでは、活発な質疑応答が交わされ、有益な情報を得ることができた。 学内で開催されるセミナーやシンポジウムに参加し、異分野の研究分野についても非常に興味深い話を聞く機会を得ることができた。	

海外派遣終了後の研究交流の進捗状況（2020年2月現在）

派遣先の教授とは頻繁にメールでやり取りを行っている。帰国後も派遣先の教授が主催の国際シンポジウムで招待講演をする機会を得たり、派遣先の教授が日本での講演の際には会って議論するなどして連絡を取り合っている。また、派遣先で取得したデータの共有、情報共有、状況の報告などは随時メールで行っており、現在、研究成果をまとめて共著での論文執筆中である。派遣先の教授は大変多忙なため、来日の際もそれほど時間を取っていただけることが難しいため、本来は顔を合わせて議論し、論文執筆を進めた方が効率的であるが、メールが主なやり取りとなっている。

海外派遣終了後の研究交流の進捗状況（2021年3月現在）

派遣先の先生とはメールで連絡を頻繁に取り合い、投稿中の論文や、作成中の論文について議論をしている。また、派遣先の先生が主催者の一人である国際学会（2021年度予定）に招待講演者として講演することが決まっている。